

「横浜市子ども・若者実態調査／市民生活実態調査」結果概要

1 調査の趣旨

本市では、子ども・若者の健全育成の推進に取り組むとともに、ひきこもり等の困難を抱える子ども・若者の自立支援施策の充実に取り組んでいます。

施策や事業の推進にあたり、15～39 歳の子ども・若者の生活状態及び困難を抱える若者のニーズや課題を把握するため、平成 24 年度以来 2 回目となる「横浜市子ども・若者実態調査」を実施しました。

今回、ひきこもりの長期化や高年齢化に対する社会的関心が高まっていることを踏まえ、15～39 歳の子ども・若者を対象とする「横浜市子ども・若者実態調査」にあわせ、40～64 歳の方を対象に、「横浜市子ども・若者実態調査」と同内容の「市民生活実態調査」を実施しました。今後の施策を検討する際の基礎資料として活用します。

2 調査の目的

本市の子ども・若者（15～39 歳）及び 40～64 歳の方の生活状態及び困難を抱える方のニーズや課題の把握

- ① 基礎数値の把握（ひきこもり数、各種リスクを抱える方の数）
- ② 市民の現在の生活状況、ふだん考えていること、抱えている悩み・課題等や実態の傾向分析

3 調査手法

- ①調査対象 : a 横浜市内に居住する満 15 歳以上 39 歳以下の男女個人
b 横浜市内に居住する満 40 歳以上 64 歳以下の男女個人
- ②標本数 : a 3,000 標本
b 3,000 標本
- ③標本抽出方法 : 住民基本台帳から無作為抽出
- ④方 法 : 郵送配付・訪問及び郵送回収
(調査票を郵送後、調査員が訪問回収。希望者等は郵送回答)
- ⑤調査時期 : 平成 29 年 7 月 28 日～11 月 30 日
- ⑥有効回答数 : a 1,004 人 (33.5%)
b 1,327 人 (44.2%)

※ なお、アンケート調査の他に、支援機関におけるヒアリング調査も実施しましたので、平成 30 年 5 月頃を目途に公表する予定です。

4 アンケート調査結果のポイント

(1) ひきこもり状態にある方の推計人数

ひきこもり状態にある 15～39 歳の方の推計人数 (約 15,000 人)
40～64 歳の方の推計人数 (約 12,000 人)

定義：ほとんど家から出ない状態が、6か月以上継続し、かつ、疾病、介護、育児等をその理由としない者

15～39 歳：14 人〔男性：10 人、女性：4 人〕(有効回答数に占める割合 1.39%) が該当

40～64 歳：12 人〔男性：6 人、女性：6 人〕(有効回答数に占める割合 0.90%) が該当

29 年 1 月 1 日時点の横浜市の年齢別人口において、

15～39 歳は 1,046 千人、40～64 歳は 1,311 千人

市内のひきこもり群の推計数は 15～39 歳：1,046 千人×1.39%＝約 15,000 人

40～64 歳：1,311 千人×0.90%＝約 12,000 人

【参考】前回本市調査及び内閣府調査との比較 (15～39 歳)

調査実施年度	横浜市		内閣府	
	24 年度	29 年度	21 年度(*1)	27 年度(*2)
調査実施年度	24 年度	29 年度	21 年度(*1)	27 年度(*2)
標本数	3,000 人	3,000 人	5,000 人	5,000 人
回収数 (率＝回収数/標本数)	1,386 人 (46.2%)	1,004 人 (33.5%)	3,287 人 (65.7%)	3,115 人 (62.3%)
ひきこもり状態にある方 (有効回答数に占める割合)	10 人 (0.72%)	14 人 (1.39%)	59 人 (1.79%)	49 人 (1.57%)
ひきこもり状態にある方の 推計人数	約 8,000 人	約 15,000 人	約 69.6 万人	約 54.1 万人

*1) 内閣府：平成 21 年度 若者の意識に関する調査 (ひきこもりに関する実態調査)

*2) 内閣府：平成 27 年度 若者の生活に関する調査

なお、40 から 64 歳の方を対象とした調査については、本市において初めての調査であり、また、内閣府においてもこれまで 40 歳以上を対象とした調査を実施していないため、前回調査及び内閣府調査との比較はありません。

<15～39歳のひきこもり群（14人）の状況>

ア Q1「あなたの性別をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
男性	6人	10人
女性	4人	4人
合計	10人	14人

イ Q3「あなたの年齢をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
15～19歳	1人	5人
20～29歳	4人	5人
30～39歳	5人	4人
合計	10人	14人

ウ Q15「現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）」について

	24年度調査	29年度調査
10代	2人	9人
20代	6人	4人
30代	2人	1人
合計	10人	14人

エ Q16「あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
6か月以上～1年未満	3人	2人
1年以上～3年未満	2人	3人
3年以上～5年未満	2人	3人
5年以上～7年未満	1人	0人
7年以上～10年未満	2人	1人
10年以上～20年未満	項目なし (29年度調査で 項目新設)	5人
20年以上～30年未満		0人
30年以上		0人
合計	10人	14人

オ Q17「あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」について

	24年度調査 (n=10)	29年度調査 (n=14)
不登校	1人	4人
受験に失敗した	0人	2人
就職活動がうまくいかなかった	2人	1人
職場になじめなかった	1人	0人
人間関係がうまくいかなかった	2人	6人
病気	0人	4人
その他	7人	3人

<40～64歳のひきこもり群（12人）の状況>

ア Q1「あなたの性別をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
男性		6人
女性		6人
合計		12人

イ Q3「あなたの年齢をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
40～49歳		4人
50～59歳		5人
60～64歳		3人
合計		12人

ウ Q15「現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）」について

	24年度調査	29年度調査
10代		0人
20代		4人
30代		1人
40代		4人
50代		3人
60代		0人
合計		12人

エ Q16「あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
6か月以上～1年未満		0人
1年以上～3年未満		1人
3年以上～5年未満		1人
5年以上～7年未満		1人
7年以上～10年未満		2人
10年以上～20年未満		5人
20年以上～30年未満		2人
30年以上		0人
合計		12人

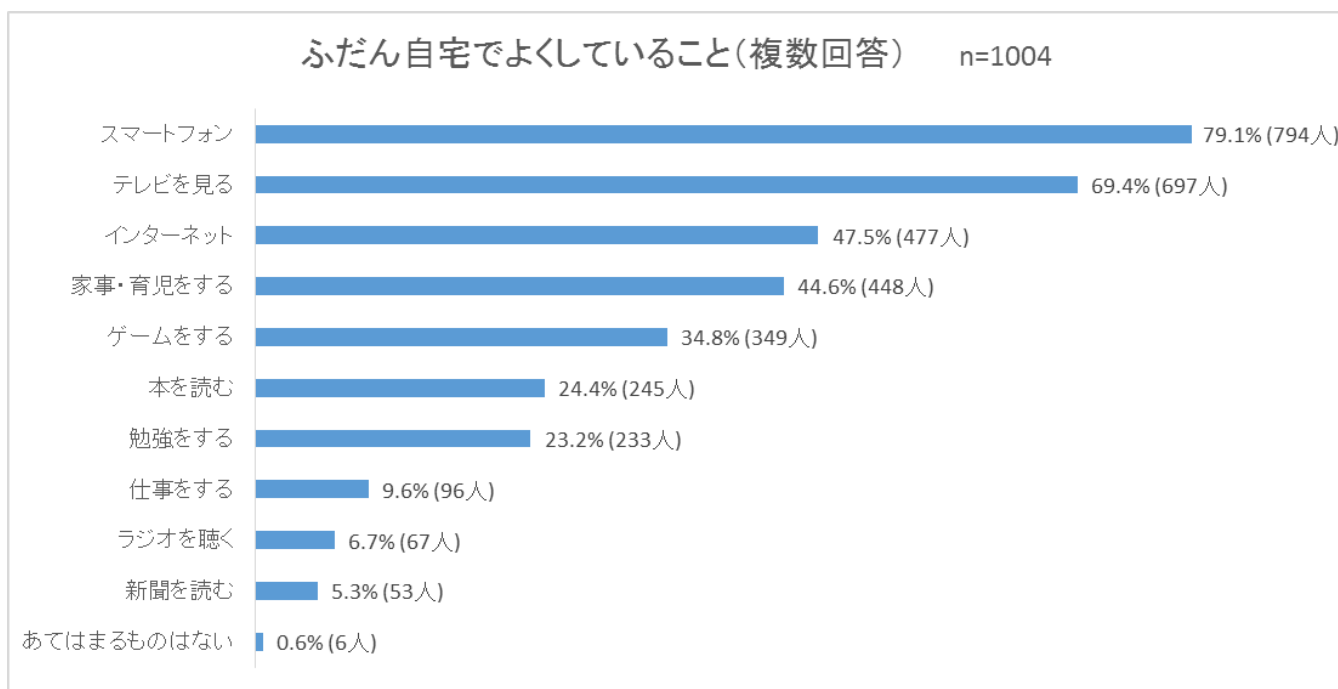
オ Q17「あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」について

	24年度調査	29年度調査 (n=12)
不登校		1人
職場になじめなかった		4人
人間関係がうまくいかなかった		5人
病気		4人
その他		1人

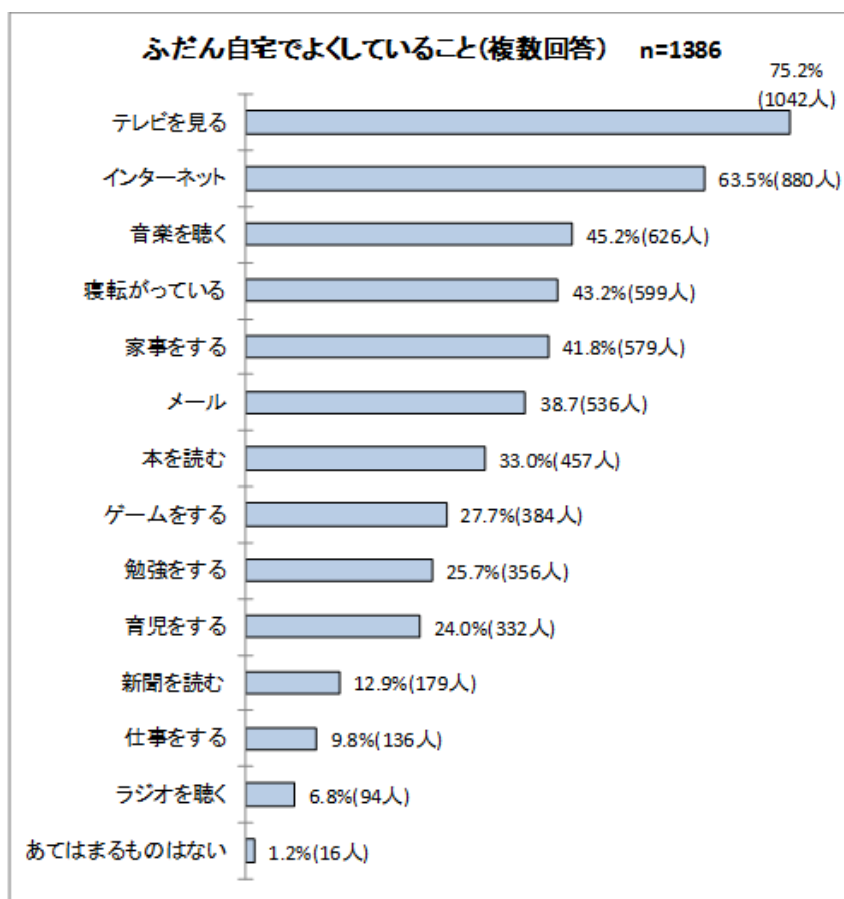
(2) 単純集計結果の概要①

ア Q13【15～39歳】「あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

・上位5位までの回答は、「スマートフォン (79.1%)」「テレビを見る (69.4%)」「インターネット (47.5%)」「家事・育児をする (44.6%)」「ゲームをする (34.8%)」であった。



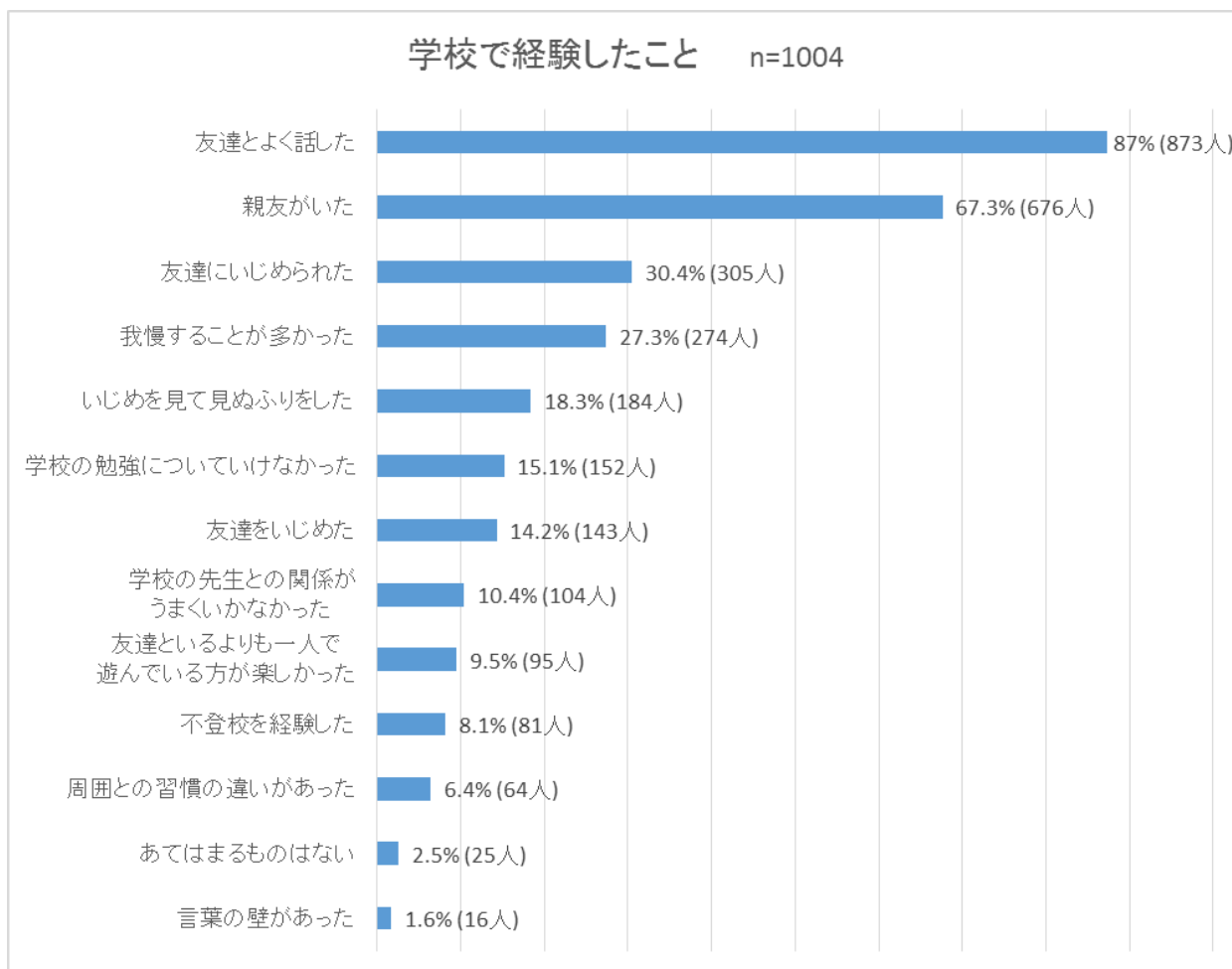
【参考】前回(平成24年度)調査



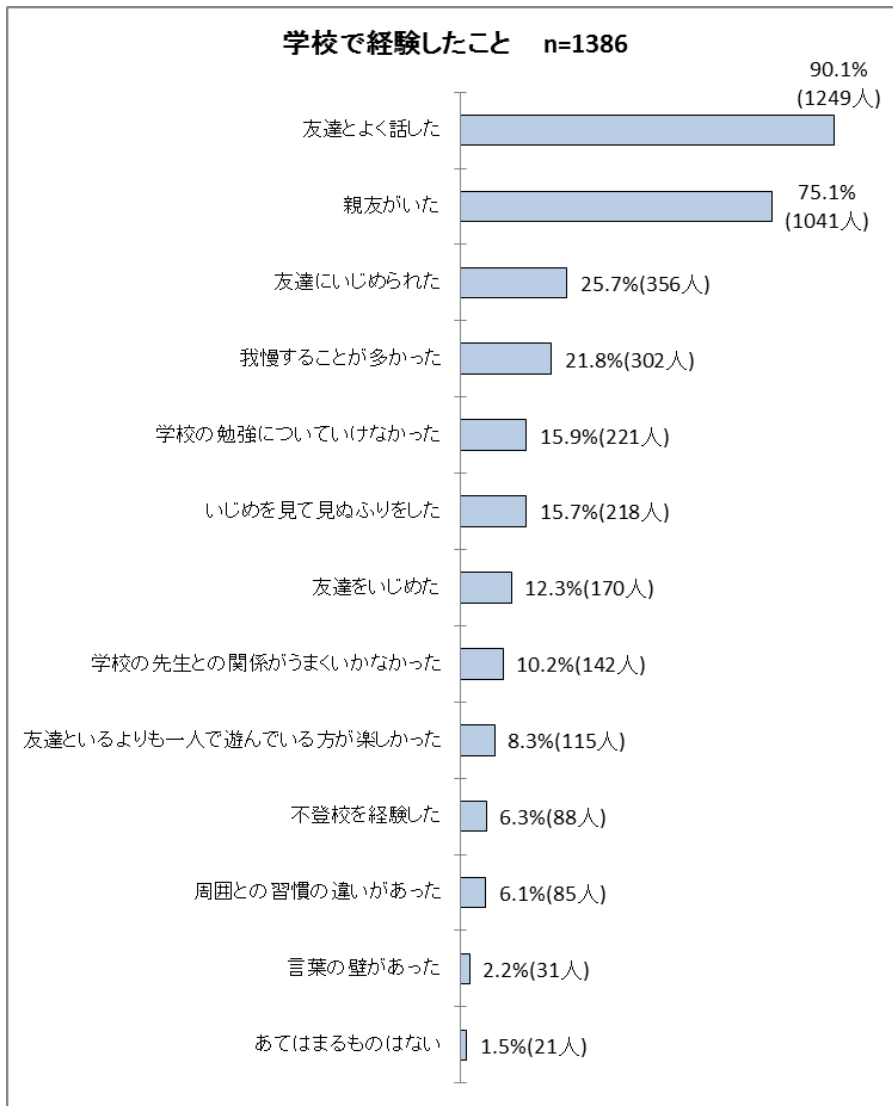
(2) 単純集計結果の概要②

イ Q31【15～39歳】「あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のような経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

- ・「親友がいた」者は 67.3%であった。
- ・「友達にいじめられた」者は 30.4%、「友達をいじめた」者は 14.2%であった。
- ・「我慢することが多かった」者は 27.3%であった。
- ・「不登校を経験した」者は 8.1%であった。



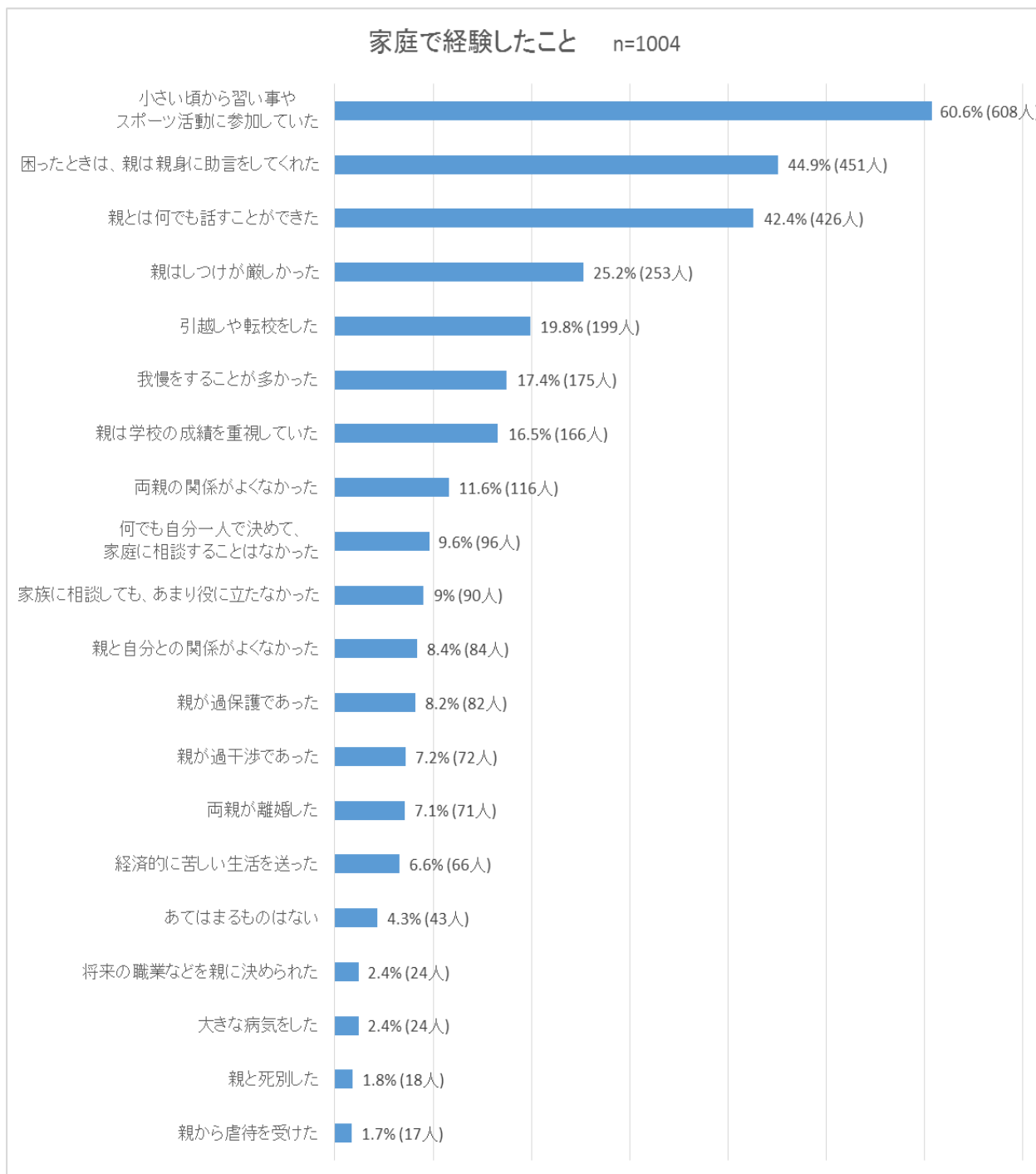
【参考】 前回（平成 24 年度）調査



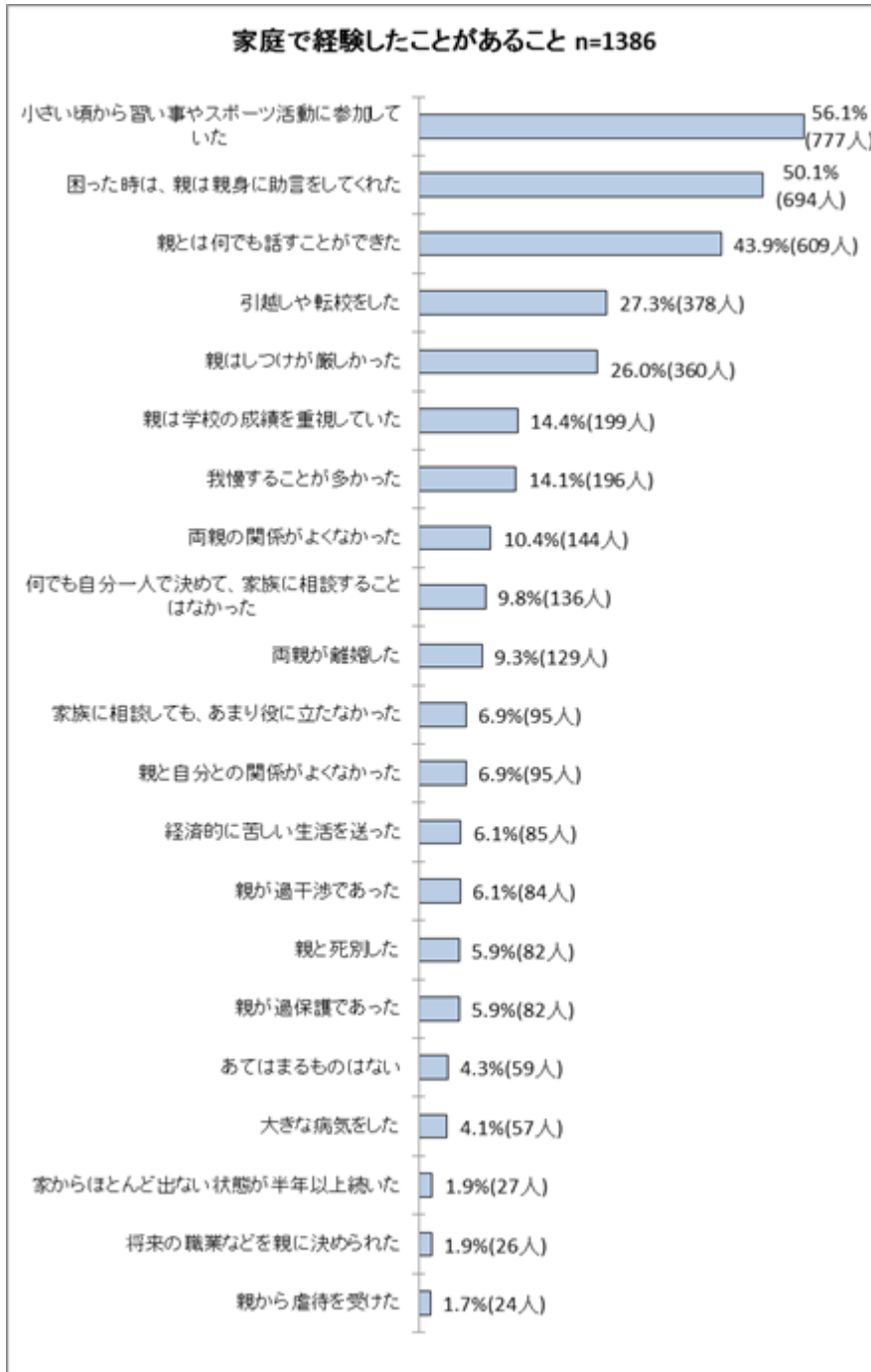
(2) 単純集計結果の概要③

ウ Q32【15～39歳】「あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のような経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

- ・「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」者は 60.6%であった。
- ・「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」者は 44.9%であった。
- ・「我慢をすることが多かった」者は 17.4%であった。



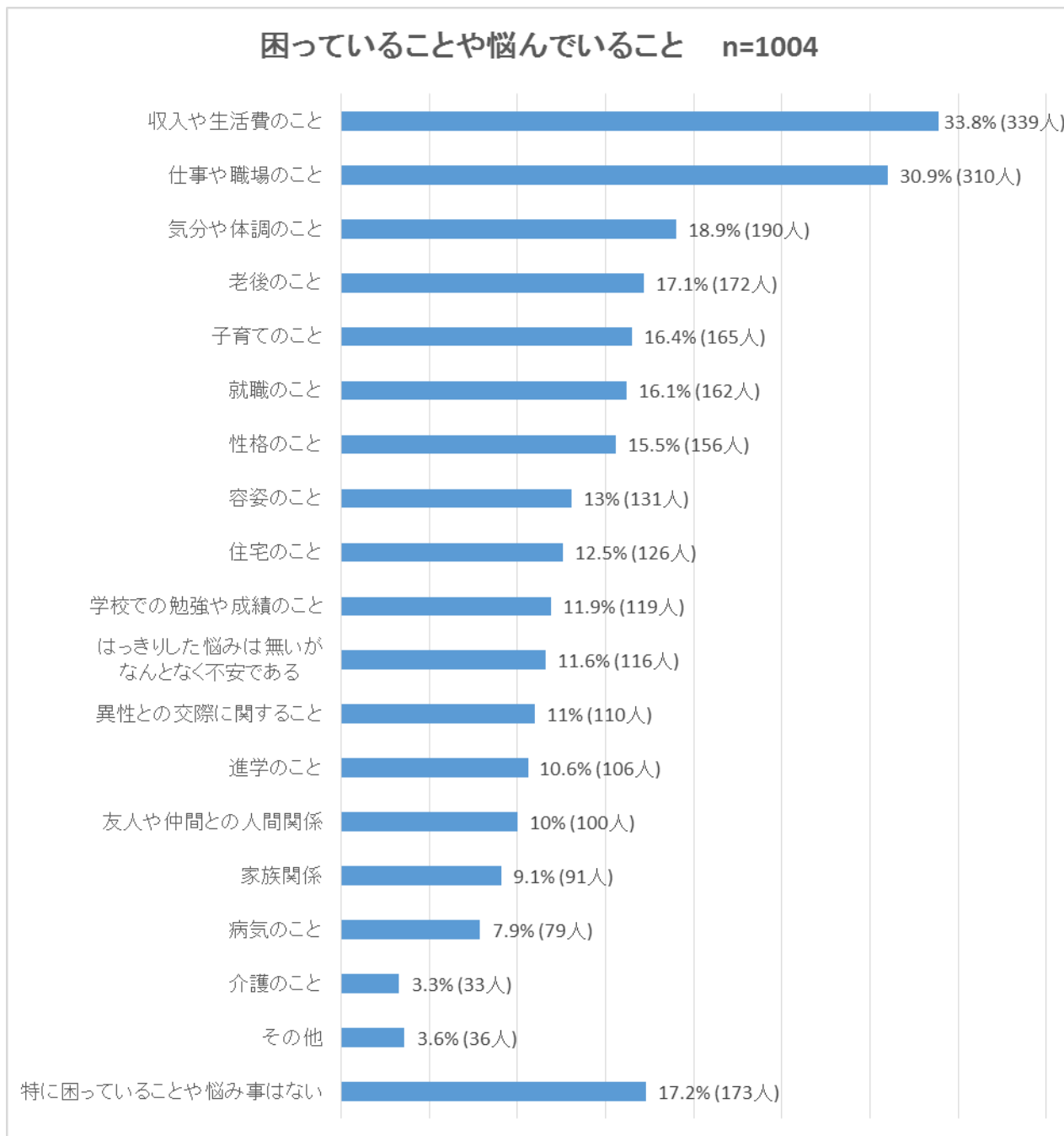
【参考】 前回（平成 24 年度）調査



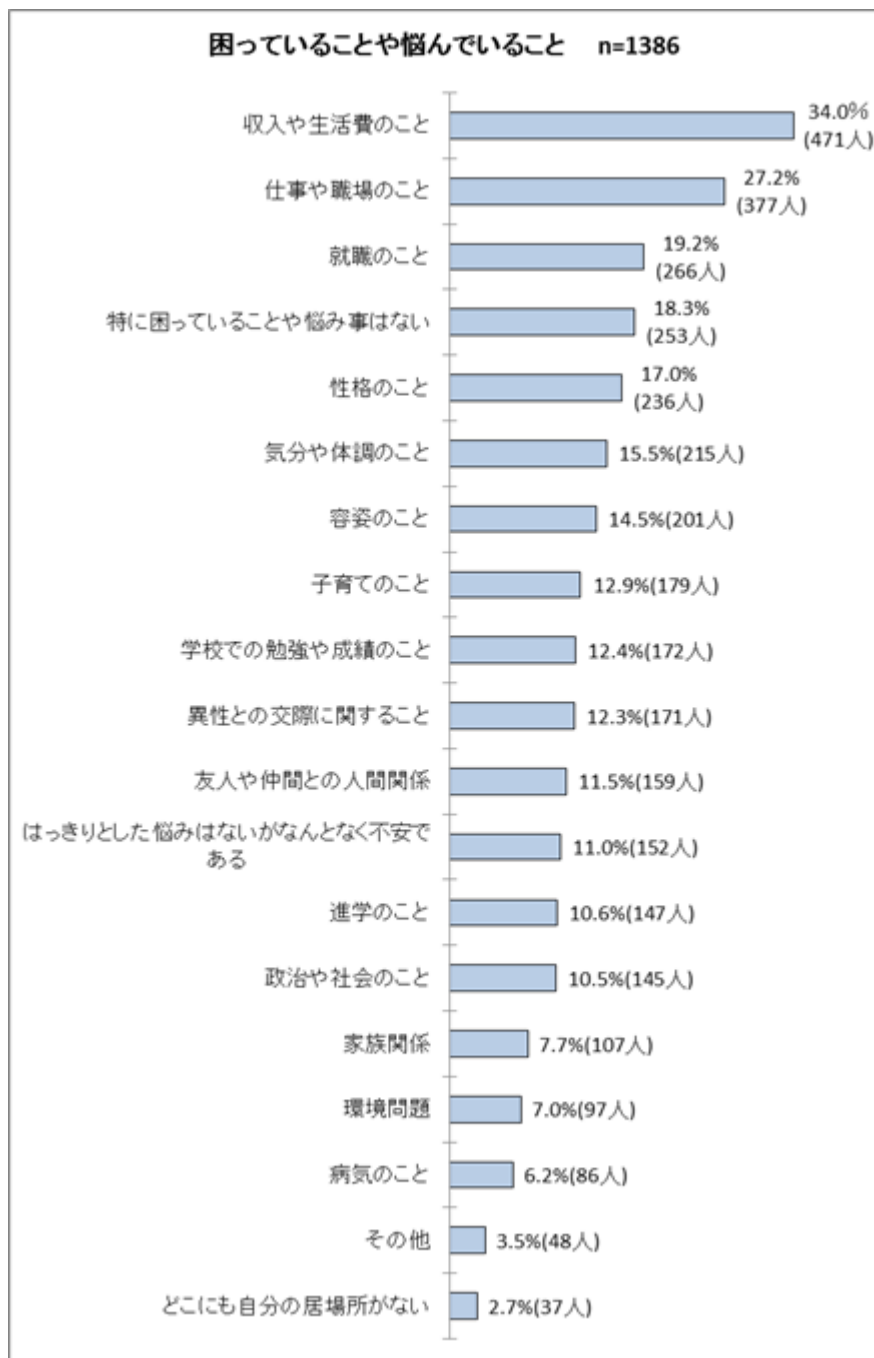
(2) 単純集計結果の概要④

エ Q38【15～39歳】「あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

- ・上位5位まで(「特に困っていることや悩み事はない(17.2%)」を除く)の回答は、「収入や生活費のこと(33.8%)」「仕事や職場のこと(30.9%)」「気分や体調のこと(18.9%)」「老後のこと(17.1%)」「子育てのこと(16.4%)」となった。



【参考】 前回（平成 24 年度）調査

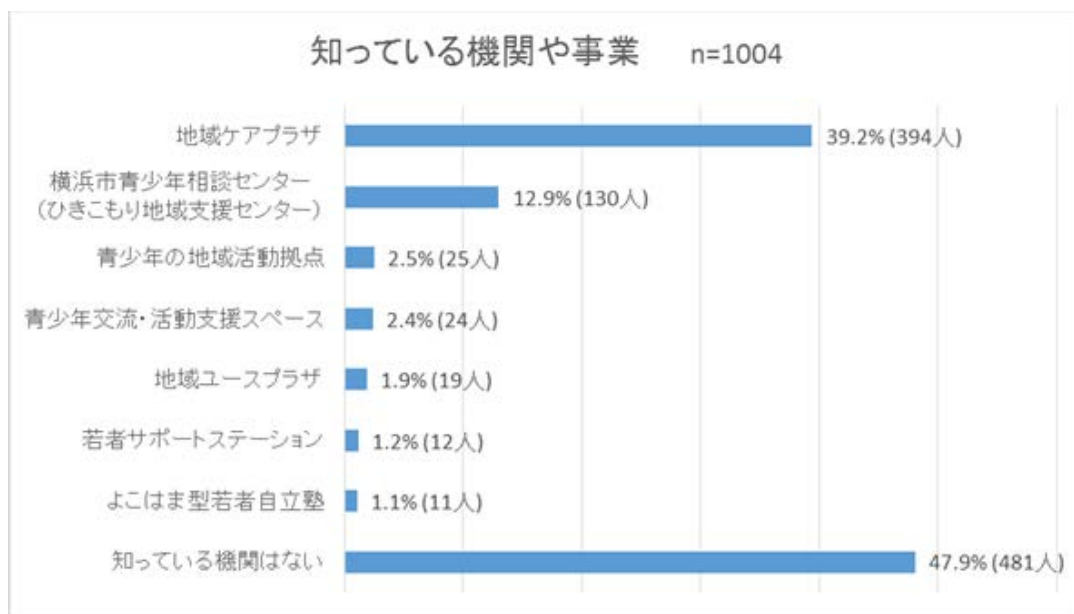


(2) 単純集計結果の概要⑤

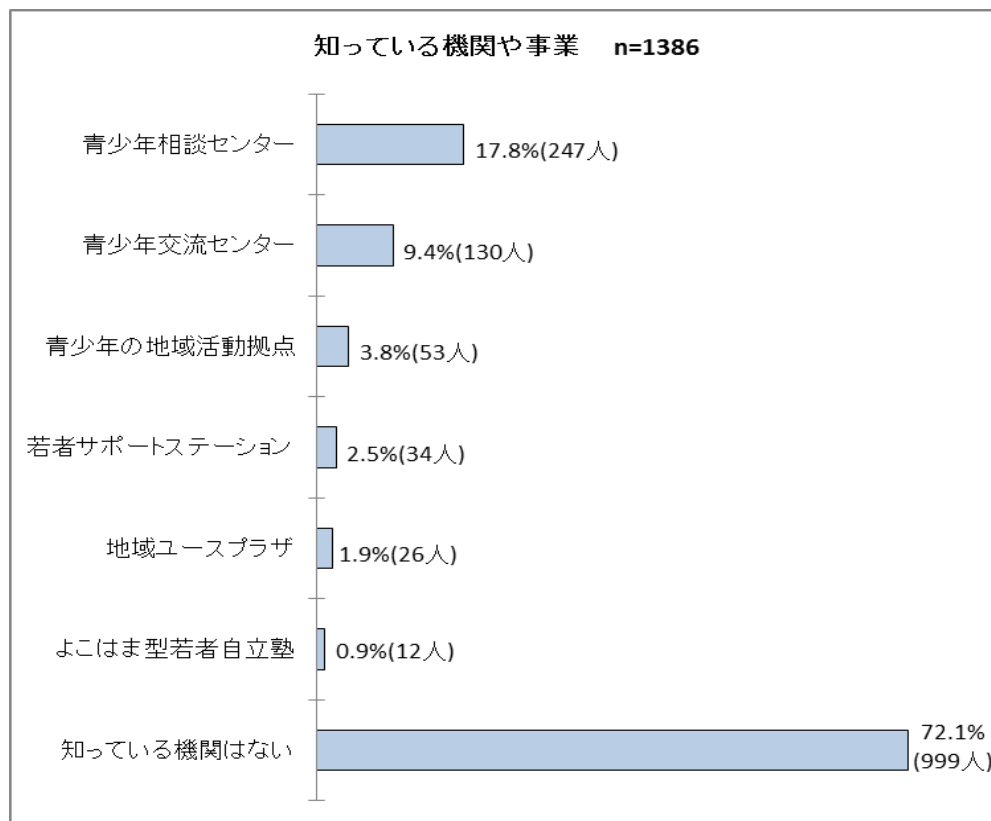
オ Q41「あなたは以下の機関や事業を知っていますか。知っている項目に○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39 歳】

- ・「地域ケアプラザ (39.2%)」「青少年相談センター (12.9%)」のほかは、3%未満の認知率であった。
- ・「知っている機関はない」者は 47.9%であった。

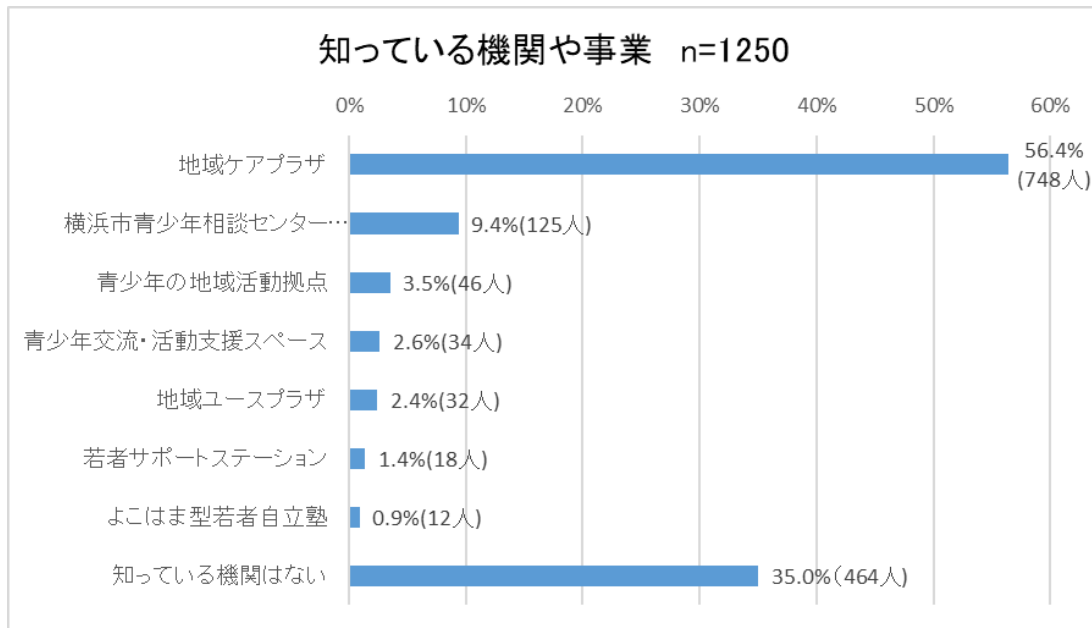


【参考】前回 (平成 24 年度) 調査



【40～64 歳】

・「地域ケアプラザ」を選択した者は 56.4%であった。



【参考】 前回（平成 24 年度）調査

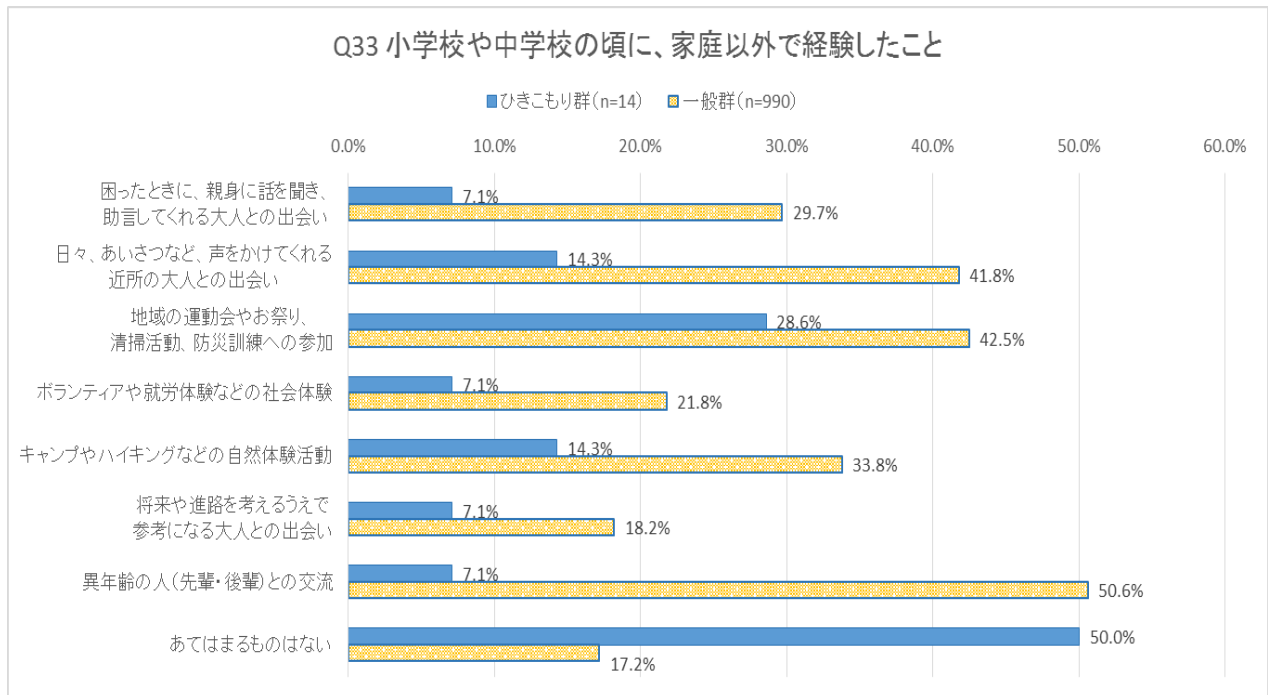
※なし

(3) ひきこもり群と一般群のクロス集計結果の概要（ひきこもり群の傾向分析）①

ア Q33「あなたは小学校や中学校（部活動も含む）の頃に、家庭以外で次のような経験をしたことがありますか。（〇はいくつでも）」について

【15～39 歳】

- ・統計上の有意差の検定はできなかったものの、小学校や中学校の頃に、家庭以外で経験したこととして、ひきこもり群は、一般群に比べ、様々な大人との出会いや社会体験、自然体験活動などの家庭以外での経験が少ないことがわかった。

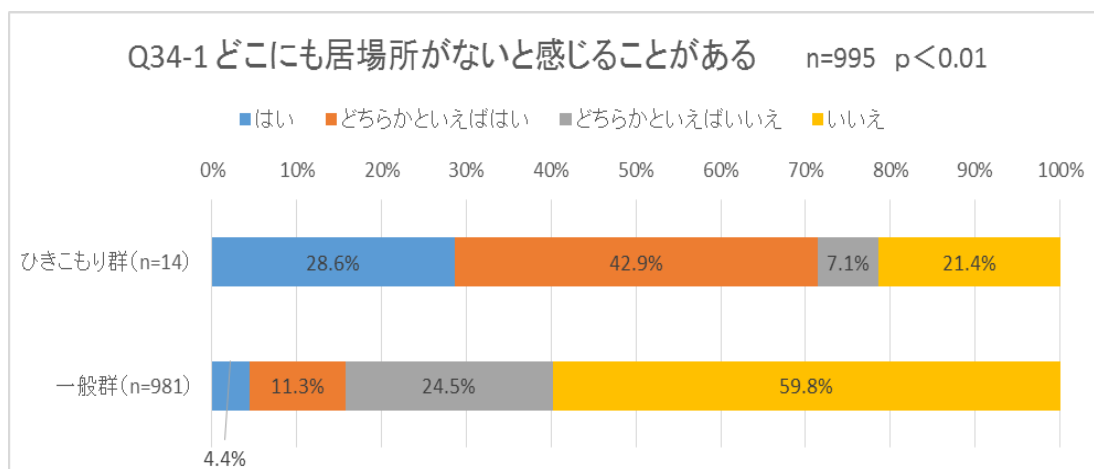


(3) ひきこもり群と一般群のクロス集計結果の概要（ひきこもり群の傾向分析）②

イ Q34-1「どこにも居場所がないと感ずることがある。(〇はひとつだけ)」について

【15～39 歳】

- ・どこにも居場所がないと感ずることがある者の割合が高い。

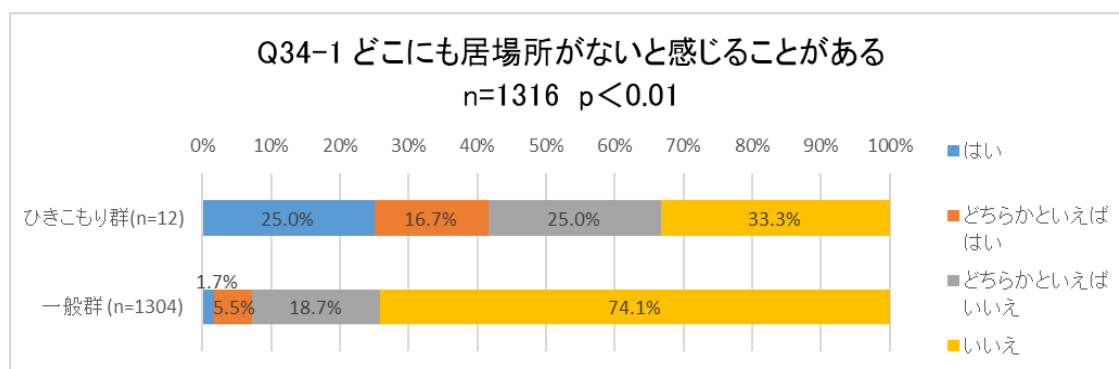


「どこにも居場所がないと感ずることがある」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 71.5%、一般群は 15.7%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、どこにも居場所がないと感ずる割合が高い傾向があった。(p<0.01)

※ p < 0.01 : 統計学的な計算を行った結果の値を p 値といい、一般的には、p < 0.05 をもって有意差 ((偶然とは考えにくい) 意味のある差) ありと判定します。

【40～64 歳】

- ・どこにも居場所がないと感ずることがある者の割合が高い。



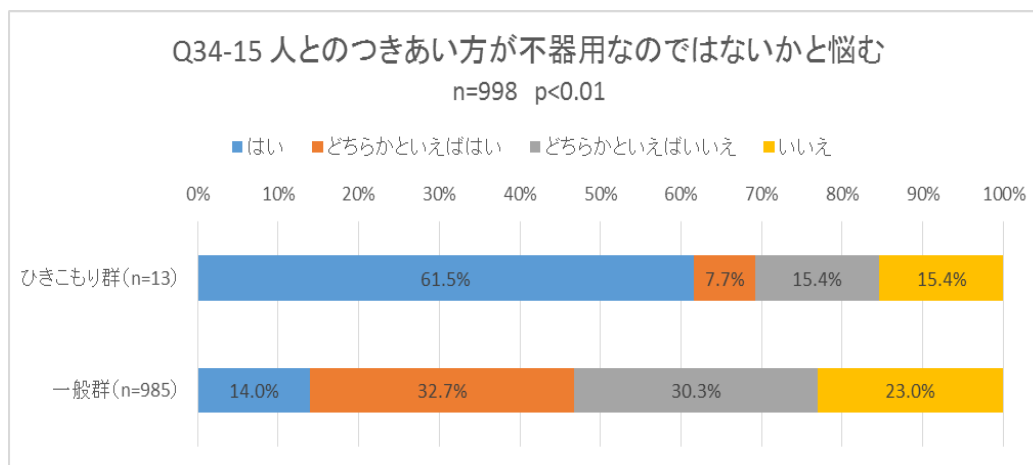
「どこにも居場所がないと感ずることがある」という質問に対して、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が、40～64 歳のひきこもり群は 41.7%、一般群は 7.2%であった。40～64 歳のひきこもり群は一般群に比べ、居場所がないと感ずる割合が高い傾向があった。(p<0.01)

(3) ひきこもり群と一般群のクロス集計結果の概要（ひきこもり群の傾向分析）③

ウ Q34-15「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む。(ひとつだけ○)」について

【15～39 歳】

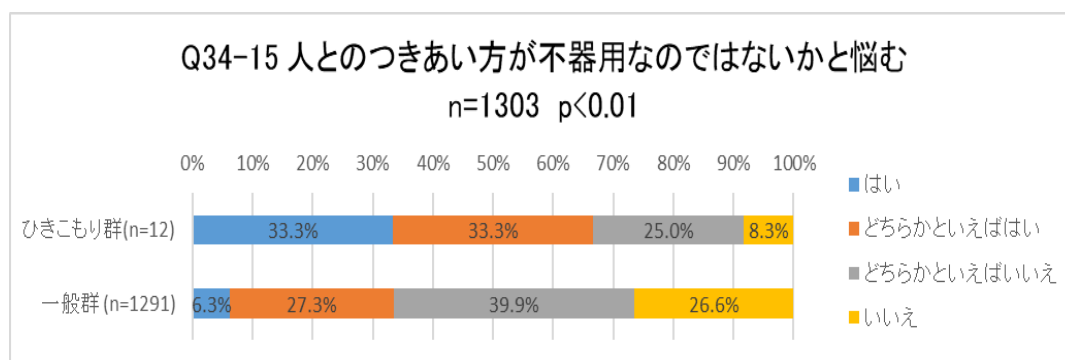
- ・人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む者の割合が高い。



「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 69.2%、一般群は 46.7%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む割合が高い傾向があった。(p<0.01)

【40～64 歳】

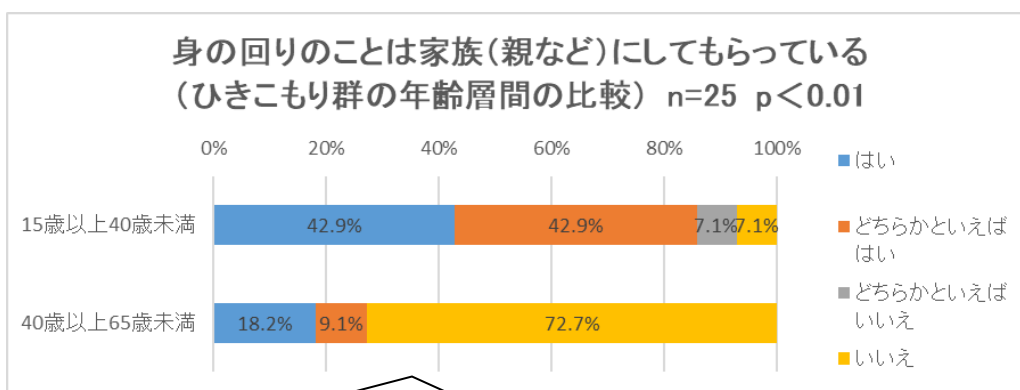
- ・人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む者の割合が高い。



「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 66.6%、一般群は 33.6%であった。40～64 歳のひきこもり群は、一般群と比べて、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む割合が高い傾向があった。(p<0.01)

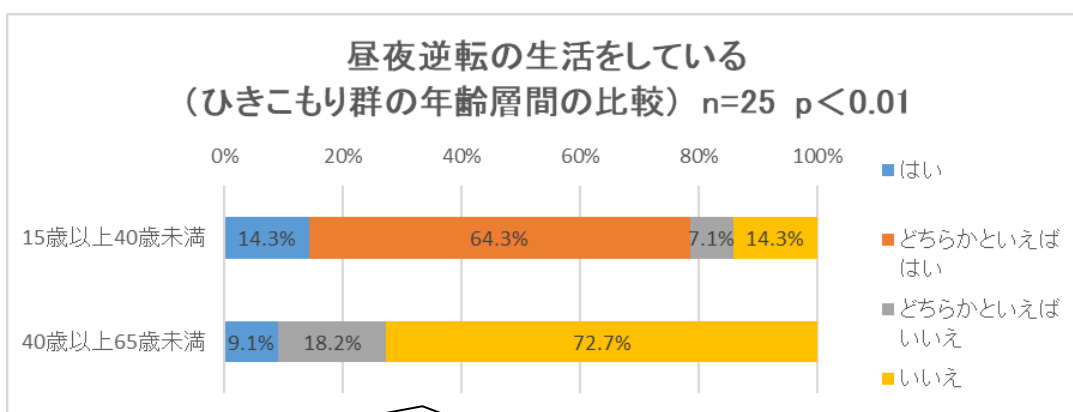
(4) 15～39歳と40～64歳のひきこもり群のクロス集計結果の概要①

ア 15～39歳のひきこもり群と比較して、40～64歳のひきこもり群の方が身の回りのことを自分でしている割合が高い。



「身の周りのことは家族(親など)にしてもらっている」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、15～39歳のひきこもり群では85.8%、40～64歳のひきこもり群では27.3%と、40～64歳のひきこもり群の方が身の回りのことを自分でしている傾向があった。(p<0.01)

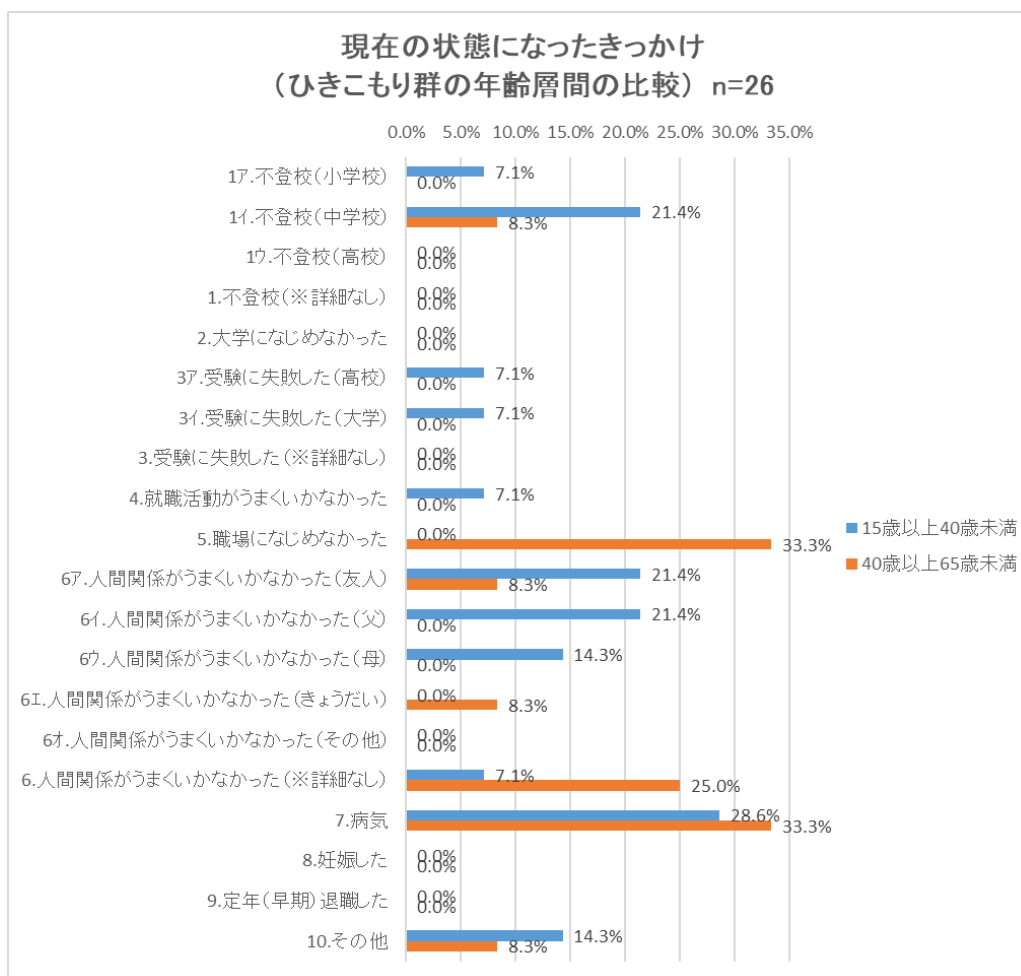
イ 15～39歳のひきこもり群と比較して、40～64歳のひきこもり群の方が規則的な生活をしている割合が高い。



「昼夜逆転の生活をしている」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が15～39歳のひきこもり群では78.6%、40～64歳のひきこもり群では9.1%と、40～64歳のひきこもり群の方が昼夜逆転の生活をしていない傾向があった。(p<0.01)

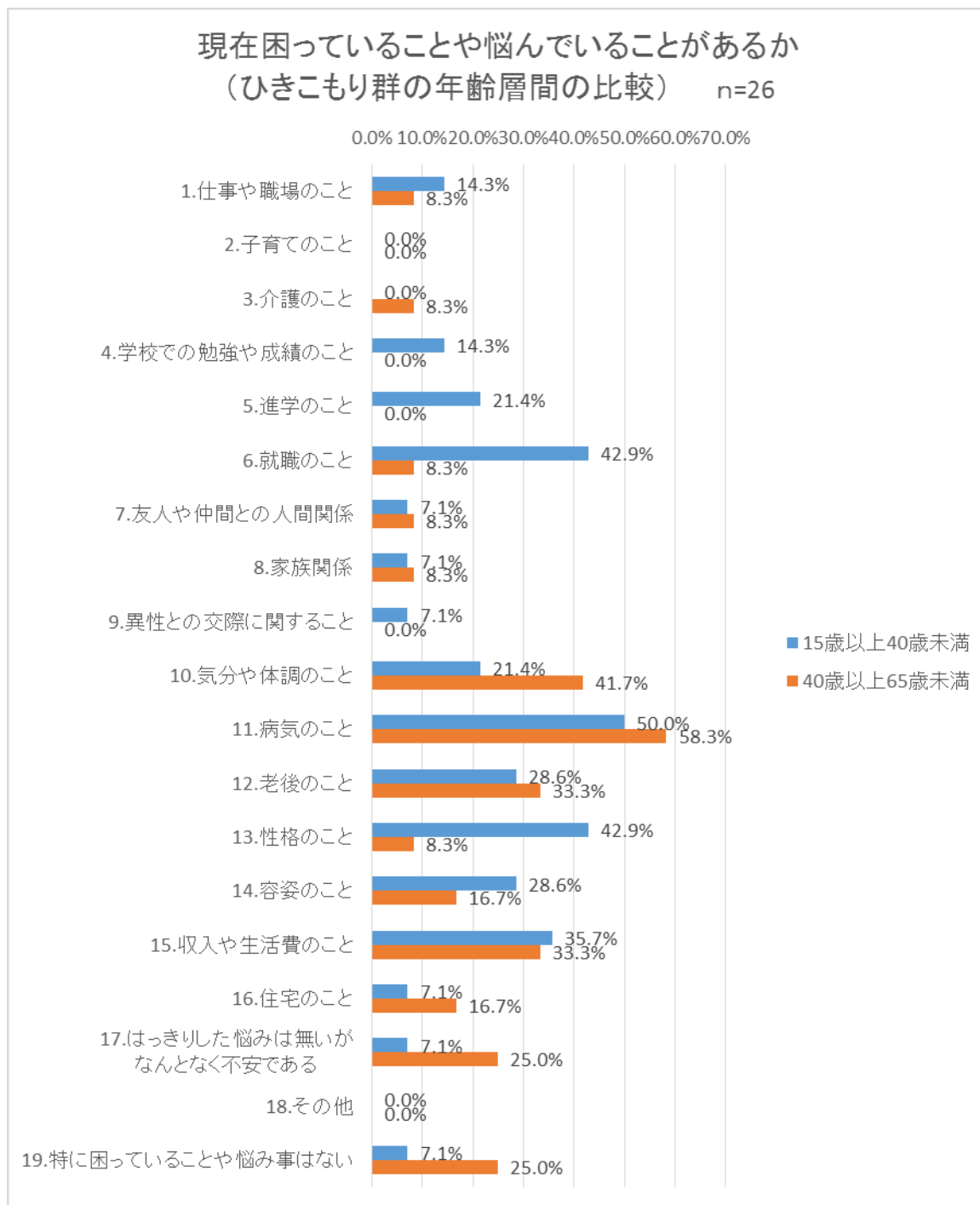
(4) 15～39歳と40～64歳のひきこもり群のクロス集計結果の概要②

ウ 統計上の有意差の検定はできなかったものの、ひきこもり状態になったきっかけとして15～39歳のひきこもり群については、「不登校」(中学校21.4%、小学校7.1%)等が挙げられるが、40～64歳のひきこもり群では、「職場になじめなかった」(33.3%)等が挙げられていた。



(4) 15～39歳と40～64歳のひきこもり群のクロス集計結果の概要③

エ 統計上の有意差の検定はできなかったものの、「現在困っていることや悩んでいることがあるか」について、15～39歳のひきこもり群は「就職のこと」(42.9%)、「性格のこと」(42.9%)などが40～64歳のひきこもり群に比べて多く挙げられており、40～64歳のひきこもり群は「気分や体調のこと」(41.7%)、「はっきりした悩みは無いがなんとなく不安である」(25.0%)などが15～39歳のひきこもり群に比べて多く挙げられていた。



(4) 15～39歳と40～64歳のひきこもり群のクロス集計結果の概要④

オ 統計上の有意差の検定はできなかったものの、「ふだん悩み事を誰に相談するか」という質問では、15～39歳のひきこもり群が「誰にも相談しない」(50.0%)、「親」(35.7%)などが多く挙げられており、40～64歳のひきこもり群は「カウンセラー」(41.7%)、「きょうだい」(33.3%)などが多く挙げられ、「ネット上の知り合い」や「ネット上の質問サイト」と答えるものはいなかった。

